

6月29日(月)

大切な時間

聖書朗読 詩篇 36:1～10

主よ。あなたの恵みは天にあり、あなたの真実は雲にまで及びます。

詩 36:5

私たちは孫娘の一人と特別な時間を過ごすという祝福を受けました。毎日、私たちは、たくさん話し、思いを分かち合い、互いを気遣いました。そうしたこともある、今は彼女が別の街に住んでいても、私は彼女のことを思い、祈りに覚えています。毎日言葉を交わすことは、愛する人との心の距離を近づけてくれるのです。私は彼女と過ごした時間を懐かしく思います。

ダビデもまた、神様との関係を喜んでいました。『あなたの御前には喜びが満ち、あなたの右には、楽しみがとこしえにあります。』(詩 16:11b)神様はダビデを『ご自分の心にかなう人』と呼ばれました。ダビデの詩篇を読むと、ダビデと神様との深い交わりがよく伝わってきます。

交わりが途絶えると、少しずつ隔たりが生まれ始めます。私も時には、神様の御言葉を読むのを怠り、祈りも短く済ませてしまうことがあります。それは、私の心や、神様との大切な関係に影響を与えます。私は毎日、もっと神様に近づきたいのです。神様の恵みを思い出し、その御前で安らぎ、御言葉から力を受けたいのです。それは健やかな関係を保つための秘訣です。

友の家を頻繁に訪ねなさい。使われない道は

雑草に覆われてしまうからだ。 — ラルフ・ワルド・エマーソン*

(*編注:アメリカ合衆国の思想家、哲学者、作家、詩人、エッセイスト。

1803-1882)

讃美歌 312 いつくしみ深き 友なるイエスは

祈り 天のお父様、私はあなたとの関係を必要としています。毎日あなたの御前を求めることができるように助けてください。私の友であり、救い主であるイエス様を感謝します。イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

コロラド州 プエブロ / キャロル・ローズ

今日の力

2026年6月29日 ～ 7月5日

翻訳 キャンベル 栄子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は新改訳聖書第三版を使用しています
※翻訳・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御茶の水キリストの教会

6月30日(火)

一からやり直す

聖書朗読 詩篇 51篇

神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。

詩 51:10

あなたはこれまでに、書いたものをクシャクシャに丸めて捨て、最初からやり直したことはありますか。新しい年の始まりに、「もっと良い人になろう」と決心したことはありませんか。私たちはもっと良くなりたいたい、もっと良いことをしたいと思うものです。

詩篇51篇を読むたびに、いつもやり直しについて考えます。でも、どうすればよいのでしょうか。私は古いものをすべて集めて、神様にゆだねます。神様のもとへ行き、罪を告白するとき、『…神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。』(Ⅰヨハネ 1:9)一からやり直したなら、私は正しい道を歩み続けたいです。

では、どうすればよいのでしょうか。私は神様の御言葉に導きを求めます。『聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのためには有益です。』(Ⅱテモテ 3:16)。そして私は聖霊の励ましによって忠実に歩むことができるのです。私たちの古い人生を受け取り、それを美しいものへ変えてくださる愛の神様がおられることは、なんとすばらしいことでしょう。私たちが神様を求めるとき、神様は私たちの心を新しくしてくださいます。

讃美歌 521 イエスよ ところに宿りて

祈り 天の父よ、私の人生を美しいものにしてくださいと願うたびに、あなたはいつもそばにいてくださいます。私のうちにきよい心を造ってくださることを感謝いたします。イエス様のお名前によって。アーメン。

オレゴン州 セイラム / キャスリーン・クナウフ

7月1日(水)

思い煩うか礼拝か

聖書朗読 詩篇 68:15~20

あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。

詩 37:5

あなたは、思い煩いますか。それとも神様を礼拝しますか。思い煩いは、神様から目を離させ、自分のことばかり考えさせます。眠れなくなり、食欲もなくなります。自分をかわいそうに思い、友人に同情を求めます。そして誰も聞いてくれなくなると、一人で落ち込むのです。でも、私たちは、そんなことをしないで、礼拝を選ぶことができます。

イエス様はそうされました。聖書には、イエス様が一人で静かな場所へ行き祈られたことが何度も書かれています。私たちが神様に向かうとき、神様との関係が問題の見方を変えてくれることが分かります。全能の神様に目を向けるとき、傷ついたり何かを失ったりして空いてしまった心を、神様が満たしてくださるのです。

神様だけが、私たちに前に進む力を与えてくださいます。神様だけが、私たちが神様のもとへ帰るまで待っていてくださるほど、愛してくださっています。天の父との深く満たされた関係へ導くために、イエス様を送ってくださった神様を賛美しましょう。

讃美歌 365 わが主 イエスよ

祈り 全能の神様、あなたのあわれみを示すために、御子イエス様を送ってくださったことを感謝します。私たちが思い煩うとき、どうか私たちの心をあなたの愛へ向けてください。イエス様のお名前によって。アーメン。



ノースカロライナ州 ローリー / キャロリン・イエーツ

7月2日(木)

心に届く蜜のようなことば

聖書朗読 詩篇 119:97~104

親切なことばは蜂蜜、たましいに甘く、骨を健やかにする。 箴言 16:24

ミツバチは自然の甘味である蜂蜜を蓄えるために、巣の中に小さな部屋を丁寧に作ります。蜂たちは力を合わせて花の蜜を集め、それを不思議な方法で、甘く、とろりとした蜂蜜へと変えます。それは蜂にとっても、人にとっても大切な食べ物になります。昔から蜂蜜は薬や甘味料として使われてきました。

箴言16:24で、作者は親切なことばを蜂蜜にたとえています。私たちはこれまでに親や先生、親族から語られた励ましの言葉をどれほど思い出してきたことでしょうか。また、自分を慕ってくれる人や大切な人から届いた手紙をどれほど大事にしまってきたことでしょうか。また、その前向きなメッセージのゆえに、その一通の手紙をどれほど大切にしてきたことでしょうか。なぜでしょうか。励ましのことばは楽しくて、私たちのたましいを元気づけるからです。

私たちはその言葉を何度も読み返し、一行一句の意味や重要性を心に受け取ろうとします。愛をもって語られた真実のことばによって、多くの人生が変えられてきました。ダビデは、『あなたのみことばは、私の上あごに、なんと甘いことでしょう。蜜よりも私の口に甘いのです』(詩119:103)と書いています。私たちも甘いことばを分け合うことで、周りの人を励ますことができるのです。あなたは今日、誰かを励ましましたか。

讃美歌 84 かみにたより

祈り 天の父よ、私たちがこの世に少しでも甘さを届ける者になれるように。今日、助けや励ましを必要としている人々に気づくことができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

ケンタッキー州 マウント・ワシントン / コニー・シンプキンズ・トーマス



7月3日(金)

共に歩む交わり

聖書朗読 詩篇 133篇

見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんとというしあわせ、なんと
いう楽しさであろう。 詩 133:1

この世界には私たちの心を奪うものがあふれていて、互いを引き離してしまっています。それに気づかないうちに、孤立してしまうことがあります。けれども神様は、私たちを共同体として造られました。それは身体的にも、霊的にもです。イエス様でさえ、伝道は一人では行われませんでした。働きを始められたとき、十二人の弟子を選ばれました。彼らは共に学び、共に旅をし、共に祈り支え合っていました。

霊的な成長は一人で経験するものではありません。神様は、交わりや会話、共にささげる礼拝、告白、励まし、そして奉仕を通して私たちを形造ってください。この世を歩む中で、私たちには共に祈り合い、導き合い、励まし合い、神様の恵みを思い起こさせてくれる、信仰の仲間が必要なのです。

テーブルを囲んで、リビングルームで、コーヒーショップで、あるいはバイブル・クラスでなど、小さなグループでの集まりは、霊的なつながりを保つための簡単だけれども力強い助けとなります。そのような交わりの中で、私たちはお互いを深く愛し合い、許し合うことを学びます。

ヘブル人への手紙の著者は私たちに、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合いなさいと言っています。(編注:ヘブル 10:25)人生が重く感じられ、先の見えない日々があればなおさらです。

イエス様にならって歩みましょう。一致を求め、交わりを選び、共に歩むのです。

讃美歌第二編 157 この世の なみかぜさわぎ

祈り 天の父よ。キリストにある兄弟姉妹と共に集まることの大切さに、私たちが気づくことができますように。互いに励まし合い、あなたの愛の中で成長していくことができるようにお導きください。救い主イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 キングストン / W・スコット・ウッドリー

7月4日(土)

唯一の選択

聖書朗読 詩篇 142篇

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。 マタイ 11:30

人が背負って歩く重荷の中で、濡れ衣を着せられることほど辛いことはありません。虚偽は人を傷つけます。まったく事実ではないのに、人々は何か恐ろしいことが本当であるかのように思い込むのです。私たちは不公平にも、辱められ、恥を負わされ、不名誉を受けます。そしてただ、真実を知ってほしいと願い続けます。この報われない思いによって、詩篇の作者のこぼれを言えば、私たちのたましいは『衰え果て』るのです。私たちは自分たちの正しさが明らかにされるのを願います。

しかし現実には、それはなかなか起こりません。偽りはなかなか消えることがありません。もし大祭司カヤパが今も生きていたなら、彼は今でも、「あの恐ろしい問題児イエスから国を救ったのだ」と言い続けているでしょう。(編注:ヨハネ 11:49~50) 私たちに残される選択は一つ、一つだけです。それは、神様に自分の心の内を打ち明けることです。

幸いなことに、これは唯一の選択であるだけでなく、最善の選択でもあります。神様は私たちについての真実をご存じであるだけでなく、私たちの傷をも理解してください。神様はただ私たちの正しさを明らかにするだけのお方ではありません。神様の恵みは私たちの満たされない思いを満たし、傷をいやし、たましいをも変えてくださるのです。不満はすべて神様に語りましょう。あなたを傷つけた人を赦しましょう。そして、真実の中に生きる歩みを続けましょう。たとえ苦しく感じられるとしても、それこそが救いという負いやすいくびきなのです。

讃美歌第二編 56 主は その群をやしないたもう

祈り 父よ、あなたは私の心をご存知です。たとえ人々が何を言おうと、あなたのみこころに従う中に平安を見い出すことができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。



アイダホ州 ボイシ / マイク・サンダース

7月5日(日)

信仰のバトンを渡す

聖書朗読 詩篇 145篇

代は代へと、あなたのみわぎをほめ歌い、あなたの大能のわざを告げ知らせるでしょう。 詩 145:4

私は中学二年生の息子がリレーを走るのを見るのが大好きでした。リレーはまさにチーム競技で、走者一人一人が自分の区間で最善を尽くし、次の走者へ正確にバトンを渡します。バトンを渡すのは、ただ速く走ることだけではありません。正しく受け渡すことが大切です。前の区間の走者は自分たちの走るレーンを守って全力で走りながら、アルミ製のバトン进行次の走者へ渡します。うまくいけば感動のシーンですが、失敗すると見ていて辛いものです。

これはリーダーシップの引き継ぎを表わす力強いたとえです。家庭ではどうでしょうか。職場ではどうでしょうか。教会ではどうでしょうか。国ではどうでしょうか。

詩篇145篇ではこう言われます。『代は代へと、あなたのみわぎをほめ歌い』次の世代に信仰を教え、訓練し、その模範を示すことはオプション(選択できるもの)ではありません。神様が欠かせないものとして定められたことです。信仰のバトンを渡す最も大切な場所は家庭です。家庭で信仰が植えられ育まれるのです。信仰は教えられるだけでなく、日々の生活の中で実践されるものです。

バトンを落としてしまわないようにしましょう。信仰、誠実、希望、そして神様への愛を、意識して次の世代へ渡しましょう。私たちの子どもたちはすでにレースで自分の区間を走っています。彼らには、良い走りができるように、私たちの模範と励まし、そして祈りが必要なのです。

讃美歌 6 われら主を たたえまし

祈り 天のお父様、私たちがあなたの愛と真理を映し出す生き方ができますように。そして次の世代があなたを知ることができますように。私たちが恵みと力をもって、信仰のバトンを渡すことができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 ナッシュビル / ジョシュ・バーネット